

古典を読むといふこと……



なぜ古典を読むのかについて考えるところから導入します。

竹西寛子

博雅の三位と鬼の笛(十訓抄)
小野篁、広才のこと(宇治拾遺物語)

大江山(古今著聞集)

◆学びを広げる 和歌にまつわるエピソード

徒然草

兼好法師

あだし野の露消ゆる時なく／悲田院の堯連上人は
世に従はん人は／花は盛りに

方丈記

【参考】玉勝間 兼好法師が詞のあげつらひ(本居宣長)

鴨長明

ゆく河の流れ／安元の大火

◆学びを広げる 随筆と記録——『百練抄』との読み比べ
日野山の閑居

◆古典の扉 隠者の文学

竹取物語 かぐや姫の昇天

伊勢物語

初冠／筒井筒

◆学びを広げる 古典作品の翻案を読む

高樹のぶ子『小説伊勢物語 業平』より

月やあらぬ／小野の雪

【参考】つひにゆく道

大和物語 姨捨

清少納言

◆学びを広げる 古語と現代語

枕草子

すさまじきもの

中納言参り給ひて／雪のいと高う降りたるを

【参考】香炉峰下、新下山居……(白居易)

【文法から解釈へ①】歌などにさへ歌へど——助詞「と」

源氏物語

紫式部

光源氏の誕生(桐壺)／藤壺の入内(桐壺)／北山の垣間見(若紫)

大鏡

雲林院の菩提講／花山天皇の出家

◆学びを広げる 『栄花物語』との読み比べ

弓争ひ／三舟の才

◆古典の扉 「声」を聞く——物語の歴史

更級日記

菅原孝標女

あこがれ／源氏の五十余巻

建礼門院右京大夫集

建礼門院右京大夫

なべて世のはかなきことを

◆学びを広げる 古典作品にみる「夢」

平家物語

忠度の都落ち／能登殿の最期

◆学びを広げる 古典作品の継承と改変

◆古典の扉 平家の光と影をたどる

【文法から解釈へ②】 落人帰り来たり——待遇表現の変化

古事記

倭建の東征

◆学びを広げる 『古事記』の登場人物

和歌十六首

【参考】古今和歌集仮名序 やまと歌は(紀貫之)

◆古典の扉 和歌から連歌へ、連歌から俳諧へ

水無瀬三吟百韻

俳諧二十句

◆学びを広げる (座の文学)を楽しもう

アニメ化も話題となった『平家物語』を例にとり、作品の継承・改変について探究する課題が設定されています。

本教材に関連する作品を、「参考」として取り上げています。カリキュラムに応じて柔軟にご活用いただけます。

『精選文学国語』『新文学国語』で取り上げている作品もあり、関係した学習を行うことも可能です。

九 和歌・連歌・俳諧

八 伝承・伝説

七 軍記

六 日記

五 物語(一)

四 随筆(一)

三 物語(二)

二 随筆(二)

一 説話

愛づ——虫愛づる姫君……



一 随筆

中村桂子
清少納言

枕草子……
木の花は／宮に初めて参りたるころ／二月つごもりごろに
大納言殿参り給ひて

学びを広げる 随筆を書く
瀬戸内寂聴 春を告げる香り
「文法から解釈へ③」いかに思ふらむとわびし——助動詞「む」

二 物語(一)

大鏡
道真と時平

学びを広げる 日本三大怨霊
最後の除目／肝試し／道長と詮子

三 日記

藤原道綱母

蜻蛉日記……
うつろひたる菊
学びを広げる 広がる逸話——『拾遺和歌集』『大鏡』
鷹を放つ

和泉式部日記

和泉式部

夢よりもはかなき世の中を

紫式部日記

紫式部

秋のけはひ
和泉式部と清少納言
◆古典の扉 平安時代の文学——女性と仮名
「文法から解釈へ④」見てけりとだに知られむ——助詞「だに」

四 評論(一)

俊頼髓脳 沓冠折句の歌……
源俊頼
無名抄 深草の里……
鴨長明
毎月抄 心と詞……
藤原定家

五 物語(二)

正徹物語 一字の違い……
正徹
去来抄 行く春を／岩鼻や……
向井去来
源氏物語……
紫式部

物の怪の出現(葵)
学びを広げる 能「葵上」
心づくしの秋風(須磨)／明石の君の苦惱(薄雲)
女三の宮の降嫁(若菜上)／秋の上露(御法)
浮舟と匂宮(浮舟)
「参考」源氏物語玉の小櫛 ものあはれ(本居宣長)
◆古典の扉 広がる源氏物語の世界

六 評論(二)

無名草子 文……
世阿弥
風姿花伝 下手は上手の手本……
世阿弥
難波土産 虚実皮膜の間……
本居宣長
玉勝間 師の説になつまざる事……
本居宣長

七 近世の文学

西鶴諸国ばなし 大晦日は合はぬ算用……
井原西鶴
学びを広げる 読み比べ——太宰治「貧の意地」
曾根崎心中 道行……
近松門左衛門
南総里見八犬伝 芳流閣の決闘……
曲亭馬琴
東海道中膝栗毛……
十返舎一九
「参考」近世の多様な文学
桃太郎昔語／刻白爾天文図解／塵劫記
◆古典の扉 オンライン「図夢歌舞伎」
近松浄瑠璃……
湯川秀樹

第二部は、「評論」や『源氏物語』など、入試を意識した読み応えのある教材を多数掲載しています。

「文法から解釈へ」は、教材の中から具体的な表現を取り上げて、古典文法の知識が読解にどのように生きるのかを考えるコラムです。

古典の中に見られる事象と自然科学とを結ぶ、文理融合の学びにもつながる文章です。